

介護予防について

厚生労働省老健局

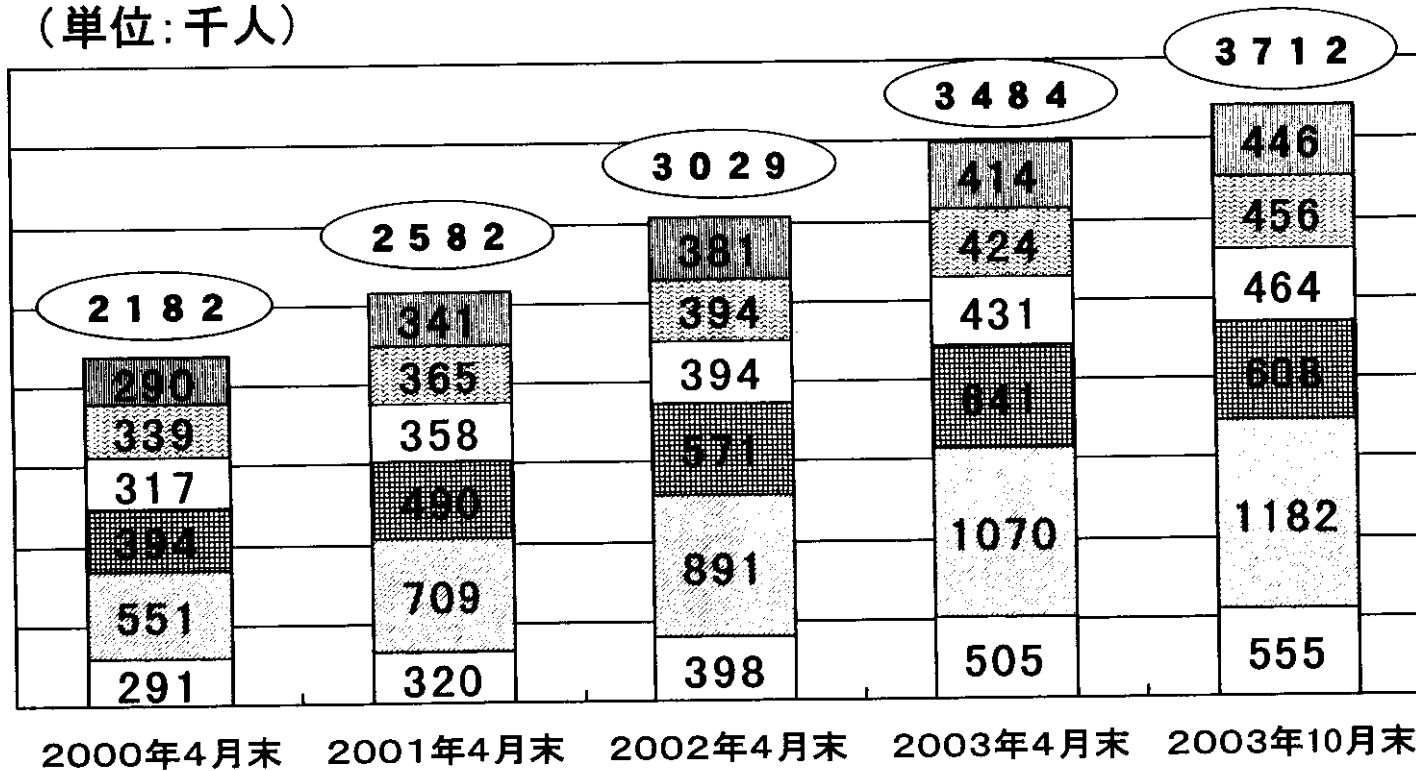
要支援・軽度の要介護者の増加

- 要介護認定を受けた人は3年6ヶ月で約153万人増加（70%）
- 特に、要支援・要介護1の認定を受けた者が大幅に増加（106%）

（要介護度別認定者数の推移）

2000年4月末からの増加率

（単位：千人）



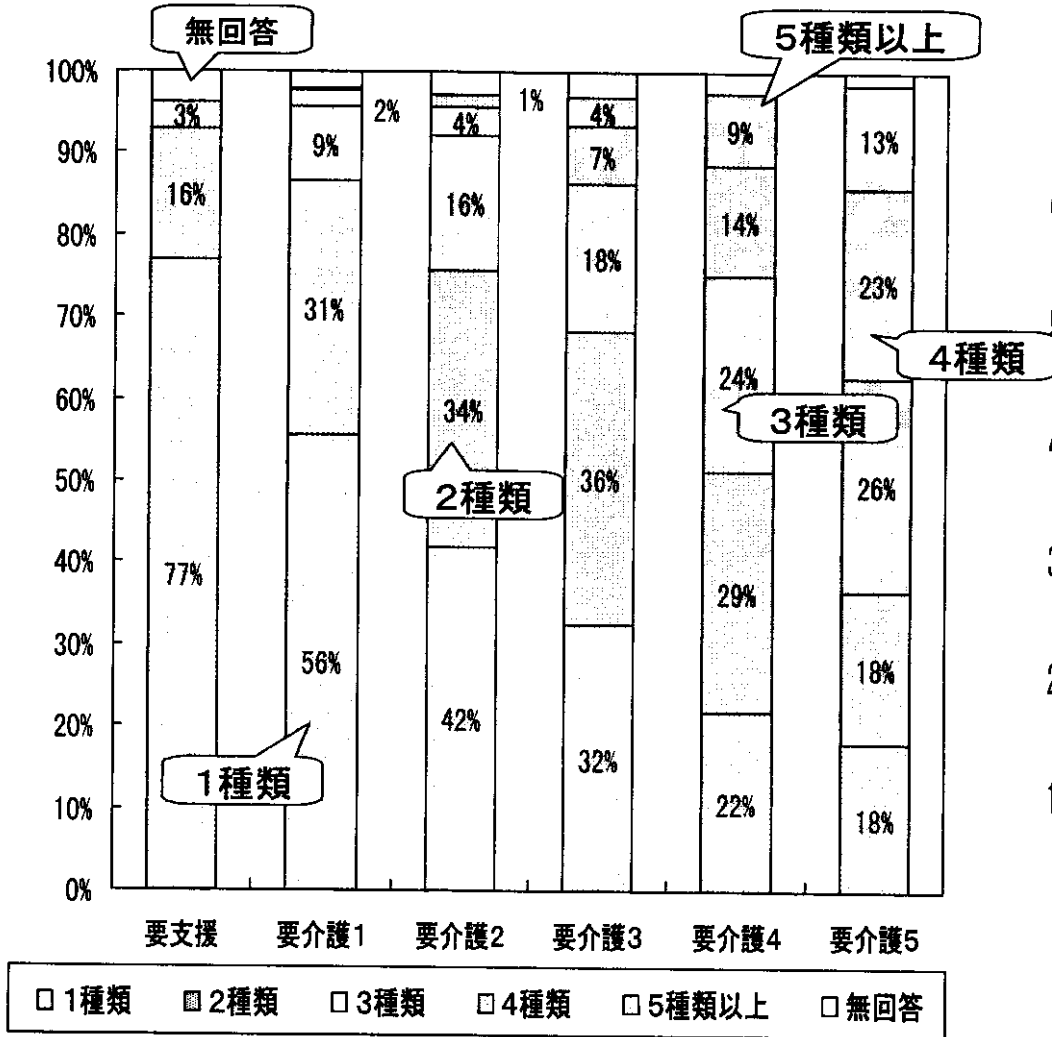
計	70%
5	54%
4	35%
3	47%
2	55%
1	115%
支	91%

□ 要支援 □ 要介護1 ■ 要介護2 □ 要介護3 ■ 要介護4 ■ 要介護5

（出典：介護保険事業状況報告）

軽度者のケアプランの現状

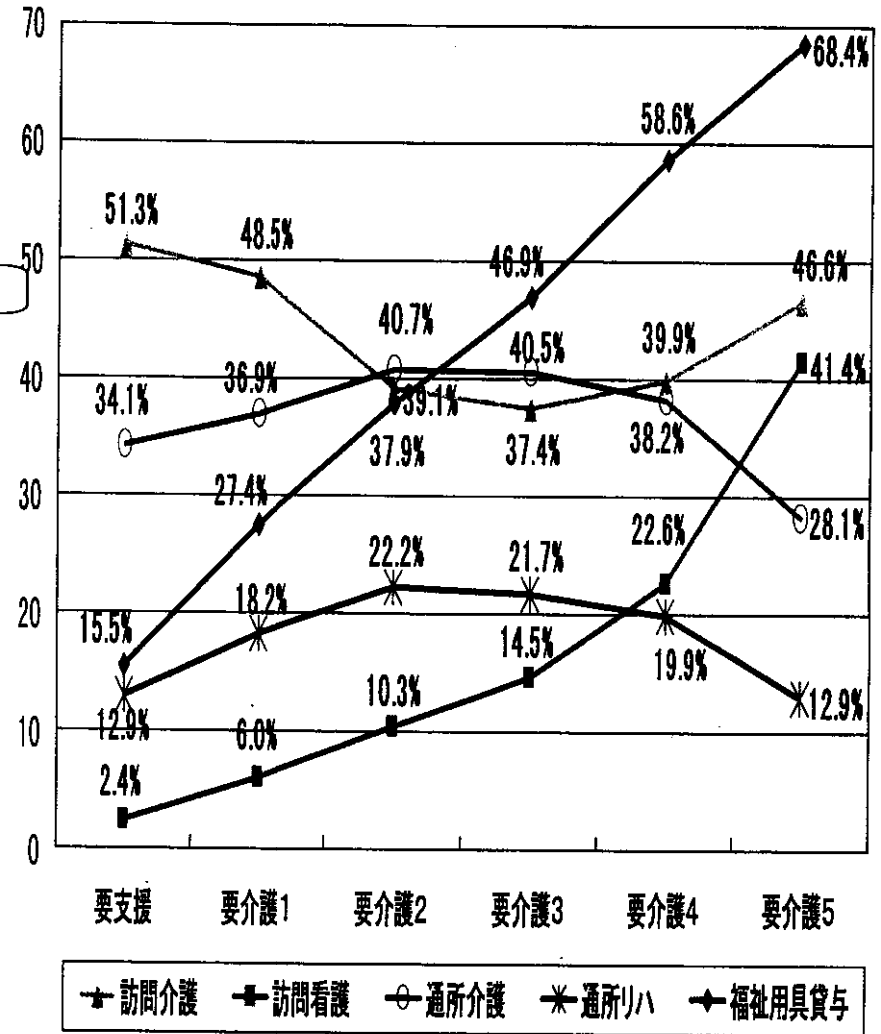
【ケアプランに組み込まれたサービス種類数】



出典：長寿社会開発センター「居宅介護支援事業と介護支援専門員業務の実態に関する調査」(2001年11月)

軽度者のサービスの利用状況

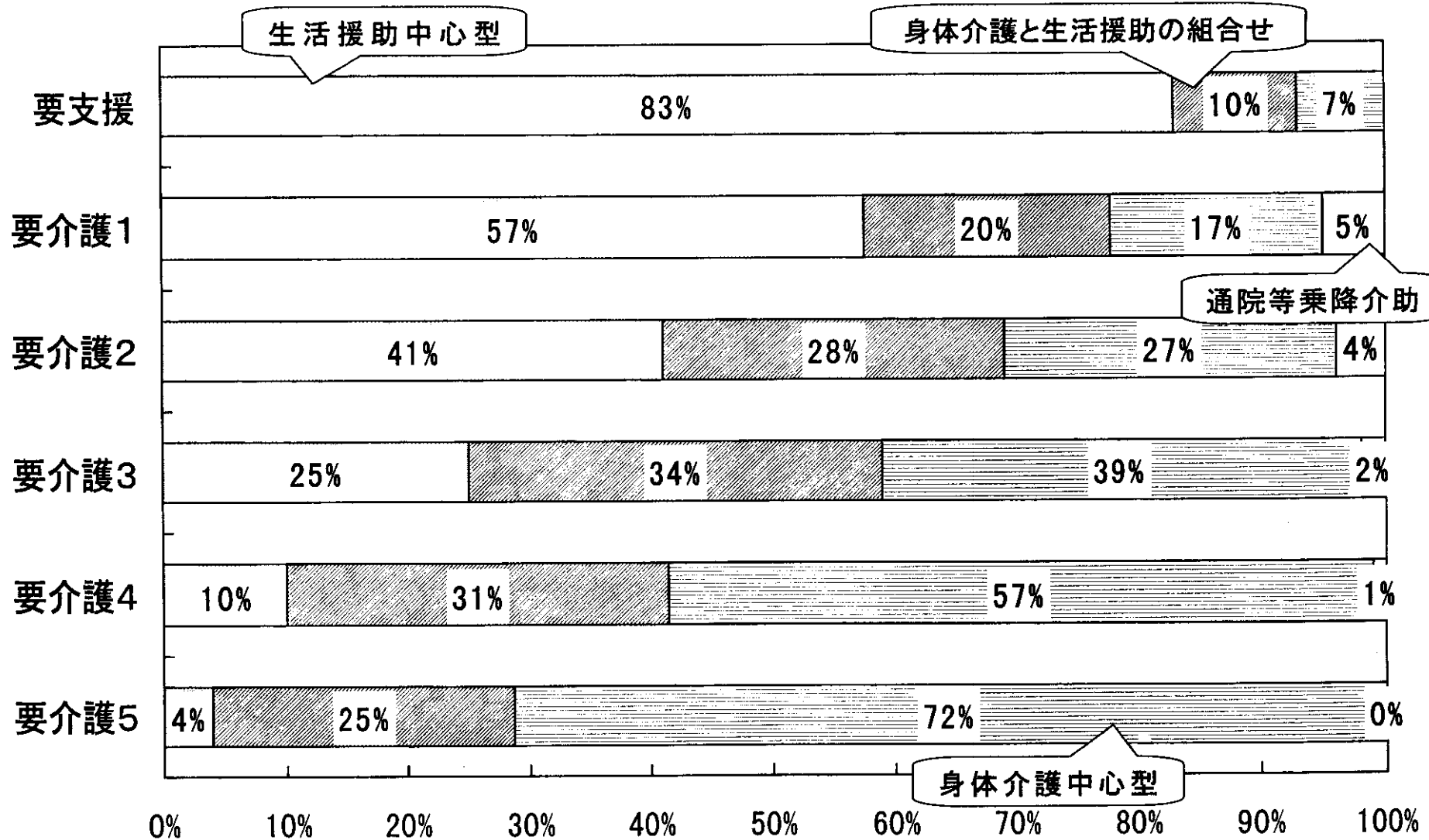
【要介護度別の居宅サービス利用者総数に占める各サービス利用者の割合】



出典：介護給付費実態調査(2003年10月審査分)

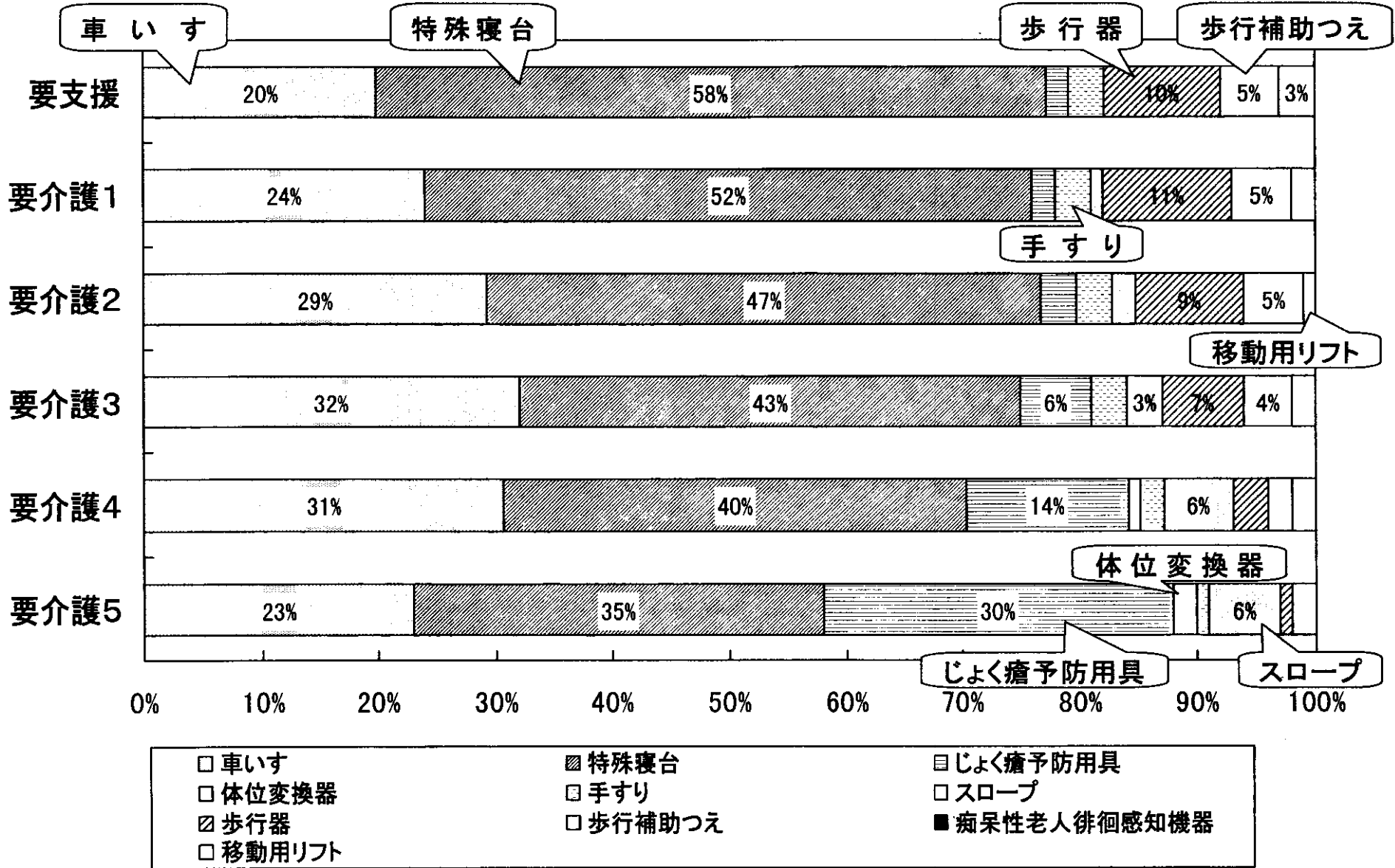
要介護度別に見た訪問介護のサービス内容

【要介護度別に見た訪問介護における請求回数内訳】



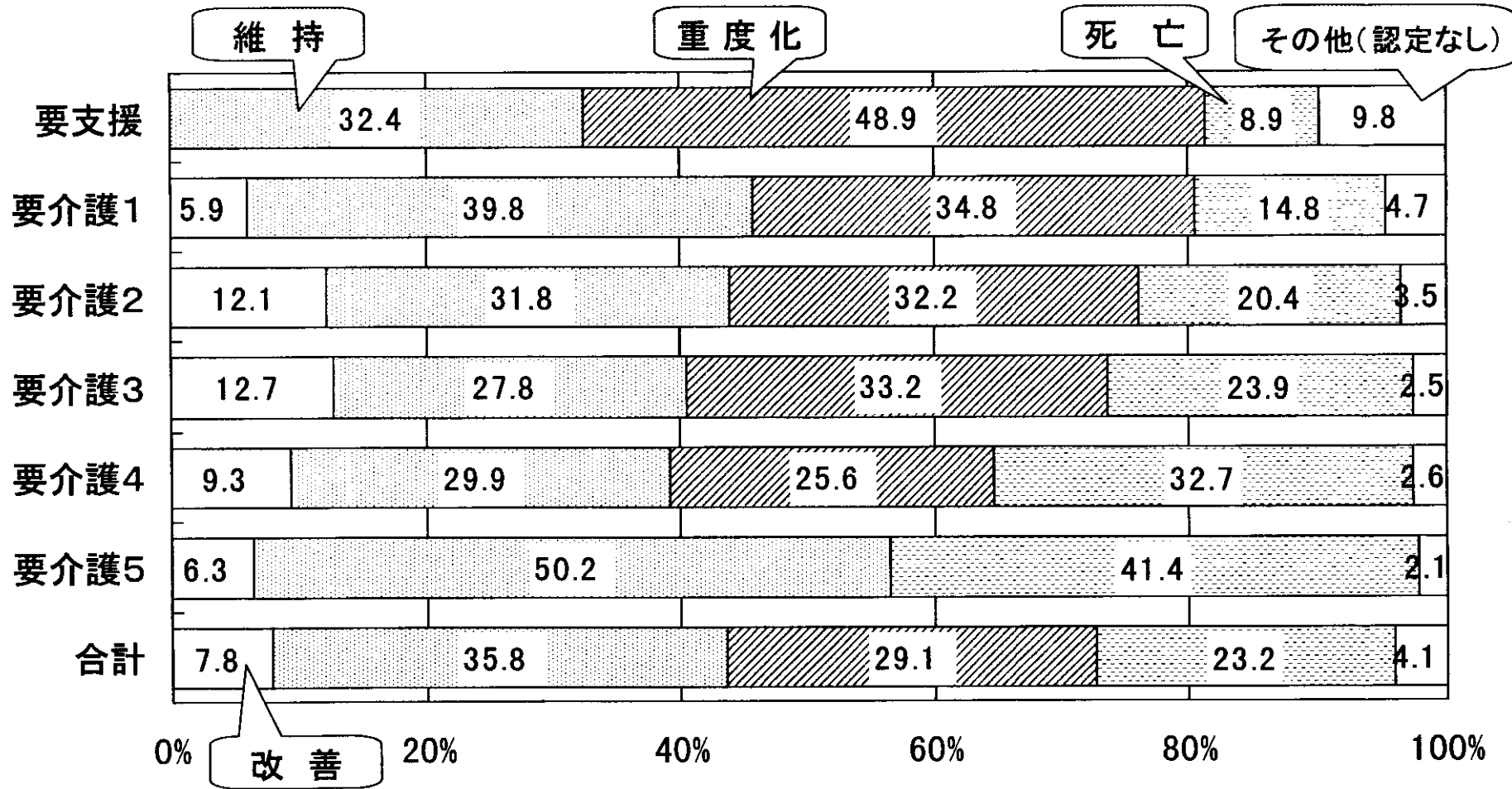
福祉用具の利用内訳

【要介護度別にみた福祉用具の種目別の貸与件数割合】



介護予防の効果

○ 要支援・要介護1など軽度の方々へのサービスが、要介護状態の改善につながっていない。



日医総研 川越雅弘主任研究員の調査研究。
 松江広域、出雲市、瑞穂町の被保険者について、2000年10月と2002年10月を比較。

要介護状態の原因となる疾病

- これまでの予防対策は主として、がん、心疾患などの死亡の原因となる生活習慣病の予防が中心。
- 今後、介護の問題を考える場合は、死亡の原因と要介護状態の原因が異なることを踏まえた予防対策が必要。

その他 26%

消化器系の疾患 4%

肺炎 10%

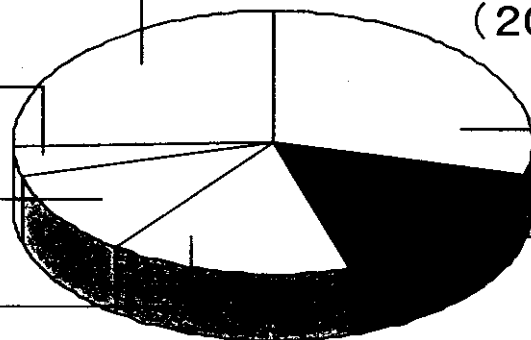
脳血管疾患 15%

65歳以上の死亡原因

(2001年人口動態統計より)

悪性新生物 29%

心疾患(高血圧性を除く) 16%



その他 17%

パーキンソン病 6%

関節疾患 11%

痴呆 11%

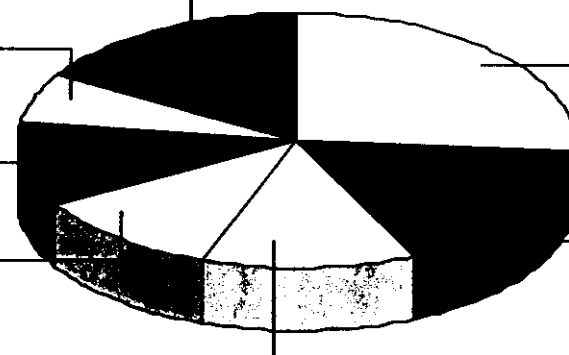
転倒・骨折 12%

65歳以上の要介護の原因

(2001年国民生活基礎調査より)

脳血管疾患 26%

高齢による衰弱 17%



要介護状態の原因となる疾病

- 軽度の要介護高齢者の多くは、高血圧性疾患、関節症、骨の密度及び構造の障害が多い。
- 要介護3以上では、脳梗塞（脳卒中）、痴呆が多い。

【主治医意見書に記載された要介護状態の原因と考えられる疾患】

在宅	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1位	高血圧性疾患	高血圧性疾患	高血圧性疾患	脳梗塞	脳梗塞	脳梗塞
2位	関節症	関節症	脳梗塞	高血圧性疾患	血管性及び 詳細不明の 痴呆	血管性及び 詳細不明の 痴呆
3位	骨の密度及び 構造の障 害	脳梗塞	血管性及び 詳細不明の 痴呆	血管性及び 詳細不明の 痴呆	高血圧性疾 患	高血圧性疾 患

出典：産業医科大学松田教授と北九州市介護保険課が協力して、主治医意見書に記載された診断名をもとに要介護状態の原因と考えられる疾患を分析したもの。